

主はモーセに仰せられた。「山へ行き、わたしのところに上り、そこにおれ。彼らを教えるために、わたしが書きしるしたおしえと命令の石の板をあなたに授けよう。」24:15 モーセが山に登ると、雲が山をおおった。24:16 主の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。24:17 主の栄光は、イスラエル人の目には、山の頂で燃え上がる火のように見えた。24:18 モーセは雲の中にはいって行き、山に登った。そして、モーセは四十日四十夜、山にいた。

第22回冬季オリンピックは2月7日にロシアのソチで開幕し、色々な競技で熱戦が繰り広げられました。オリンピックは誰もが参加できる訳ではないので、メダルを逃した選手たちにとっても参加できたことは大変な荣誉でした。一生忘れられない思い出になるはずですが、しかし、選手以外にも大きな荣誉を与えられた人がいました。それは2018年に第23回冬季オリンピックが開催される韓国の平昌（ピョンチャン）市の市長でした。2月23日の閉会式で、オリンピック旗がソチ市長からIOC会長へ、そしてIOC会長から平昌市長に手渡され、韓国国歌が斉唱され、韓国国旗が掲揚されました。世界には多くの市長がありますが、ソチオリンピックの閉会式でこの荣誉を与えられたのは平昌市長だけでした。

ところで、今日の旧約聖書と福音書では、ある信者たちが山の上に招かれ、そこですばらしい体験をしました。アダムとエバから今日まで、数え切れない信者が存在しましたが、その体験をする荣誉を与えられたのはたった4人でした。しかし、私たちはその4人をほめたたえるのではなく、その4人にすばらしい体験をさせ、彼らの信仰を強めた主をほめたたえましょう。主はその4人に少しだけ神としての栄光を見せましたが、すべての信者は天国で完全に主の栄光を見るからです。

I. 主によってシナイ山の頂に招かれたモーセ

エジプトを脱出した200万人以上のイスラエル人は、3ヶ月目にシナイ山の麓に着きました。神は彼らをそこに約1年滞在させ、彼らに国を持たせ、彼らが神のことを他の民族に宣べ伝える務めを果たせるように、十の戒めに要約される道徳律法、信仰生活を規定する祭儀律法、国の法律に当たる政治律法を与えることにしました。神は彼らがいよいよ従うことを望まなかったのも、モーセを通して「あなたがたが私の教えに従うなら、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの宝、わたしの民となる。」と伝え、彼らの意志を確認しました。すると彼らは、「私たちは主の仰せられたことを、みな守り行ないます。」と返答しました（出エジプト19:4-8）。それで主は、出エジプト記24章1節から11節で、イスラエル人の代表者たちと正式に契約を結びました。その際、神はモーセに、民がささげた和解のいけにえの血の半分を祭壇に注ぎかけさせ、残りの半分を神との調印式に臨んだ人々に注ぎかけさせました。それは、人の罪が赦されるためには命の代償が必要なこと、血によるきよめがなければ神の前に出ることはできないことを教えるためのものでした。

その調印式の後、神はモーセをシナイ山の上に招きました。24章13節と14節によると、ヨシュアも途中まではいっしょに登ったようです。しかし、15節から18節によると、ある所からモーセは一人で登りました。モーセの他は誰も招かれませんでした。主はモーセにだけ、「山へ行き、わたしのところに上り、そこにおれ。」と告げました。これは「シナイ山は聖なる山で、神が留まっている山だ。」という意味ではありません。神はモーセに現われる場所としてシナイ山の山頂を選びましたが、シナイ山を永遠の住まいとするつもりはありませんでした。神は動くことのできない偶像ではないので、そうしようと思えば、いつでもシナイ山から離れ、どこにでも現われることができました。宇宙さえ天地万物の造り主である神を閉じ込めることはできません。神がモーセをシナイ山の頂に招いたのは、石の板に書きしるしたおしえと命令を授けるためでした。イスラエル人が神の民であるためには、それはどうしても必要でした。神のことはいつの時代の信者にとっても不可欠です。私たちは石の板ではなく、紙に書かれた神のことはや電子版を持っているので恵まれています。持ち運びしやすいし、そうしようと思えば、いつでも、どこでも読むことができます。

モーセが山に登ると雲が山をおおい、主の栄光が山の上にとどまりました。麓にいた人々の目には、主の栄光は山の頂で燃え上がる火のように見えました。それはまるで主の威厳と、罪を嫌い、罪をことごとく罰する神きよさを象徴しているようで、人からは恐ろしく感じるものでした。ですから、雲が山をおおったことはモーセにとって恵みでした。雲はモーセの恐れを和らげるための神の配慮でした。モーセは旧約時代の有名な信者ですが、神のきよさの基準（律法）で見れば、私たちと同じく生まれながらの罪人で、思いやことばや行ないよって多くの罪を犯しました。モーセといえど、神を直接見ることはできませんでした。直接に見たら、死んでしまいました（出エジプト33:17-23）。それで神は山を雲でおおい、ご自身がそこにいることを示すと同時に、モーセが近づきやすい環境を整えました。私たちは主の栄光がシナイ山の頂で燃え上がる火のようであったことよりも、主がご自身の栄光を信者に見せる時は、救いの約束と関係のある重要な役割を与えるのに先立つ励ましの意味があることを覚えましょう。

神はモーセから400年以上も前に、彼らの先祖アブラハムに対して、「あなたとあなたの子孫に国を与える。あなたの子孫を大いに増やす。あなたの子孫からすべての人々を祝福する救い主を生まれさせる。」と約束しました。神はその約束を果たすために、奴隷として苦しめられていたイスラエル人をエジプトから救い出しました。もちろん、以上の三つの約束の中で一番重要なのは救い主をイスラエル人から生まれさせることでした。モーセはシナイ山で「おしえと命令」、つまり、律法や規則を授かりました。おしえや命令を授かる務めであっても、シナイ山から降りて来てからしばらくモーセの顔は主の栄光で光っていました。その光はやがて消えましたが、それまで民は恐ろしくてモーセに近づけませんでしたが。パウロはそのモーセの務めを、すべての人の罪の償いを成し遂げ、恵みによる罪の赦しを差し伸べたイエスの務めと比較しました。そして、「神のおしえや命令を伝えたモーセの務めが栄光に輝いたのなら、すべての人の罪の償いを成し遂げ、恵みによる罪の赦しを差し伸べるイエスの務めはなおさら栄光に輝いているのです。」と教えました(2コリント3:7-18)。モーセの顔の輝きは一時的でしたが、イエスがすべての人を罪の報いである永遠の死から救い出すために成し遂げたことの栄光は永遠に消えません。天国では、今の世で以上に輝きます。

II. イエスによってある山の上に招かれた3人の使徒

新約時代にも、モーセと同じように主によって山の上に招かれた弟子たちがいました。それは使徒と呼ばれたイエスの直弟子の中のペテロとヤコブとヨハネでした。モーセの場合と違い、イエスが3人の使徒と登った山ははっきり分かりません。しかし、重要なのはどの山かではなく、そこで起こったことです。3人の使徒はその山ですばらしい体験をしました。彼らの目の前でイエスの姿が変わり、顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなりました。マリヤの胎に宿って、生まれて以来、イエスは神としての力や栄光の行使を極力控え、謙遜な状態を取っていました。しかし、受難と十字架での死が近づいて来たので、その前に神としての栄光の輝きを少しだけこの3人の使徒に見せました。それは、やがて来る受難の時にこの3人や他の信者たちがつまづかないようにするためのイエスの深い配慮でした。

この3人は、モーセとエリヤが現われて、イエスと話し合っているところも見ました。このできごとはペテロとヤコブとヨハネの信仰を強めるためのものでしたが、それと同時に、神のしもべである救い主イエスを励ます父なる神の配慮でもありました。マタイの福音書からはモーセとエリヤとイエスの話の内容は分かりませんが、ルカの福音書によると、イエスのエルサレムでの最期(十字架の死)について話し合っていたことが分かります。しかし、ペテロはあまりのすばらしいできごとに舞い上がってしまい、イエスたちの話し合いを聞いていなかったようで、場違いな発言をしました(マタイ17:4)。

ペテロが場違いな話をしていると、光輝く雲がそこにいた人々を包み込みました。それはモーセが雲で包まれたのと同じことでした。イエスの直弟子であるペテロたちでさえも直接に見ることが許されない方が、そこに現われたのです。そしてその方は、「これは(イエスは)、わたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞きなさい。」と告げました。このように告げることができるのは父なる神だけです。ペテロたちはそれが分かったので、地面にひれ伏して恐れしました。ですから、もし雲に包まれていなかったら、ペテロたちはどうなっていたのでしょうか。それを考えると、神の配慮の深さが良く分かります。

ペテロがこのすばらしい体験、すばらしい栄誉の意味を本当に理解できたのは、復活したイエスに会ってからのことでした。イエスの預言通り(ヨハネ21:18, 19)、ペテロが第2の手紙を書いた頃、彼は信仰と伝道活動が理由で捕えられ、死刑にされる日が近づいていました。ペテロは自分が置かれている状況を分かっていたのですが、捕まるのが怖くて大祭司の庭で「イエスを知らない」と3回言った時のようには、動揺しませんでした。むしろ、「私があなたがたに知らせたことは作り話ではありません。私たちはある山の上でキリストの神としての威光を目撃しました。私たちは主イエスとともにいて、父なる神の御声を自分自身で聞いたのです。また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。・・・それに目を留めていると良いのです。」と、ペテロのことで動揺し、怯えていた信仰の兄弟姉妹を励ました。

私たちはモーセやペテロたちのように、主に招かれて山に登ることはありません。モーセやペテロたちは、すばらしい体験をしました。しかし、それは彼らの栄誉のためではなく、彼らが神のことばを宣べ伝え、信者を導く務めを果たすための励ましを与えるためでした。私たちはモーセやペテロたちのような体験をしませんが、気落ちする必要はありません。私たちはモーセやペテロたちが持っていなかったものを持っています。それは旧約39書、新約27書、合計66書からなる完結した聖書です。聖書によって聖書を解釈する原則に従うなら、私たちは聖書の至るところでイエスの栄光を見ることができます。私たちは雲に包まれなくても、恐れずに父なる神の御前にでることができます。なぜなら、イエスがすべての人の身代わりに神の戒めを完全に守り、そのきよく汚れのない命を十字架の上で神に捧げ、すべての人の罪を完全に償ったからです。信仰を通しての神の恵みとして、罪を完全に赦され、神の子としての身分を与えられたからです。その体験を世の人々に語り広めましょう。そうすれば、主の栄光がこの世に輝きます。